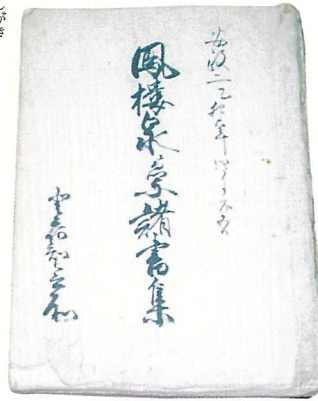


安政二乙卯年四月廿五日

鳳樓泉^{ホロイズミ}ニ而諸書集

登荷知会所^{トカチ}



四部の文書のうち、最も古い安政二年（一八五五）のもの。蝦夷地の幕府再直轄にさいしトカチ会所から箱館奉行の詰合^{つめあい}に提出したホロイズミ場所関係の諸書類を集めたもので万延元年（一八六〇）までの六ヶ年間の書上書^{かきあげしよ}や、達書^{たつしがき}などが収録され、最も部厚^{ぶあつ}く、表紙をいれて一五〇ページに及んでいる。

御会所御道具之内御預^{おどづかりひん}品代金書上

サルル番家諸道具直段付之事^{ねだんづけ}

ホロイズミ会所諸道具代金調書上

古漁具^{ならびに}並諸道具代残書上

出産物蝦夷人与買入定直段出

ホロイズミ会所年中記録

天保三壬辰年三月

達書^{たつしがき}のうちホロイズミ会所年中行事は文化九年（一八一二）三月のもので、諸書集のなかでは最も古い。また天保三年（一八三二）三月の「異国船関係」の書類など七件八通、また手船関係、天保七年（一八三六）二月の「御達書写^{おたつしがきうつし}」などが含まれ、ホロイズミ場所ばかりでなく、トカチ場所を知る貴重な資料である。登荷知^{とがち}会所はトカチ会所、鳳呂泉^{ほろいずみ}会所は幌泉^{ほろいずみ}（ホロイズミ）会所で、年度により漢字名が変わっており、当時の帳役が当て字で表記している。